



MUROTO Deep Sea Water

Only 0.1% of the world's oceans are harvested for that water.

高知県海洋深層水研究所
基本構想策定業務

～概算見積り依頼書～

業務概要

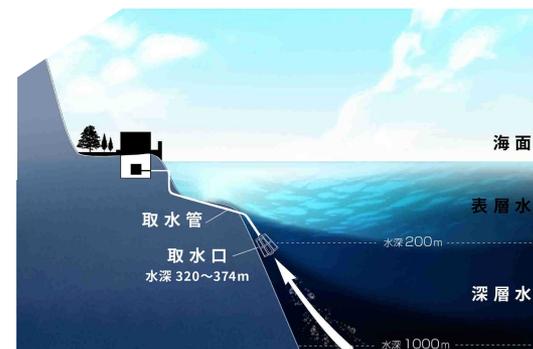
業務名(仮)	高知県海洋深層水研究所基本構想策定業務
ゴール	今後の高知県海洋深層水研究所の今後のあり方について分析・検討を行い、構想案として提出する。
スケジュール (想定)	<p>業務期間：R7.5月～R8.2月</p> <p>また、以下のスケジュールに沿って、海洋深層水研究所のあり方検討会で適宜報告などを行うこととする。</p> <p>(R7.5～6月)</p> <ul style="list-style-type: none">・調査委託事業開始に向けた協議 <p>(R7.9～10月)</p> <ul style="list-style-type: none">・委託事業の中間進捗報告会 <p>(想定R8.2～3月)</p> <ul style="list-style-type: none">・委託調査事業の最終報告会・あり方検討会で構想案について協議し、<u>基本構想として策定</u>

業務要件

成果物	調査・分析を行った結果を、レポートにまとめ提出する。
調査対象	高知県海洋深層水研究所【現状調査】 沖縄県海洋深層水研究所【個別調査】 静岡県水産・海洋技術研究所【個別調査】 富山県海洋深層水利用研究施設（水産試験場）【個別調査】 ※海外海洋深層水研究施設（要相談）【個別調査】
調査方法	国内研究所：現地調査および資料による調査 海外研究所：資料による調査
調査の進め方	【現状調査】 ・高知県海洋深層水研究所の現状把握のため、調査を実施する。 【個別調査】 ・対象三県の研究所における"先進的な点"と"課題"を把握し、高知県研究所と比較分析を行うための調査を実施する。 【分析・検討】 各種調査結果にもとづき、国内外の他の海洋深層水施設の現状や今後の需要見込、トレンド等をふまえ、高知県の海洋深層水における研究機能のあり方と取水・分水機能について分析・検討を実施する。

▶ 詳細は次頁以降

調査項目について



現状調査

高知県海洋深層水研究所の現状

■ ハード（研究施設）

- | | | |
|--------|-------------------|---|
| ①建物 | 施設・設備の状態、老朽化具合 | 建物の老朽化状態をできる限り把握し、建て替えや移転の緊急性などを把握。 |
| ②取水・分水 | 取水・分水施設の状態、管理運営体制 | 取水管流量調査は完了しているが、取水分水施設全般の状態把握および、管理運営の現状を過去の取水トラブルなども含めて把握。 |

■ ソフト（研究内容）

- | | | |
|------------|-----------------|--|
| ①研究機能 | 現在の研究内容、設備状況まとめ | 現在継続している研究の進捗状況、設備の不足・老朽化具合などを把握。 |
| ②これまでの取組評価 | 過去の研究評価表の再評価まとめ | これまで行ってきた研究の中から、現在再度取り組むべき課題がないか等を再評価。 |

■ ハード（研究施設）

①施設

取水施設と研究施設の立地、
建物構造

BCPの観点から、3県では取水施設と研究施設(オンサイト、オフサイト含む)の位置関係はどうか。
また、建物構造などでBCP対策で工夫を図っているかを調査。

②取水・分水機能の状況

取水・分水施設の状況、管理
運営体制

取水・分水は市町村、研究施設は県というあり方もある。他県の分水体制等を調査することで、研究所と取水施設の関係性も検討する。

分水方法、料金

取水量の構成（分水用、研究用、その他）

高知県の現在の分水管理体制を見直すための調査。
他県の分水における基本情報や、どれくらいの割合で水が利用されているか（オーバーフロー分の処理含め）調査する。

個別調査

他県研究所との比較

■ ソフト（研究内容）

①研究機能の状況

これまでの代表的な研究内容

取水・分水施設の状態、管理運営体制

3県のこれまでの研究内容と、導入している研究機器や設備を調査し、現状の高知県の研究所と比較。

いずれの施設も高知県の研究所よりも後で設立されているため、進んでいる研究分野や機材などを調査する。

高知県の研究において進んでいる分野も分析する。

②研究施設の運営について

研究体制

県職員だけの運営か、外部研究員の常駐があるかなどを調査。

研究参画機関の参画状況と参画方法

国立研究開発法人、大学、企業、または研究者個人での参画があるかを調査。参画がある場合、参画方法や、参画研究者の専門分野（化学、生物学、水産学等）も調査。

研究に関する資金の調達方法

分水料金、公的資金、クラウドファンディング、SIB、企業版ふるさと納税制度等、研究補助制度、減免措置の適用状況など、3県での資金調達方法を調査。

個別調査

他県研究所との比較

■ ハード（研究施設）

（個別調査の結果をふまえて実施）

分析・ 検討

高知県の海洋
深層水における研究機能の
あり方と取
水・分水機能

①研究施設の あり方

立地、建物構造・設備を検討

立地＝「現在地」，「高台移転」，
「室戸市外移転」

建物＝現在地で「建替」，「リノベーション」
移転では「新設」，「既存の施設利用」
etc

立地によってどういった構造が適切なのかを
分析・検討する。

※上記について、複数プランの提示を求める

建物の概算費用の検討

立地や建物構造のプランに応じて、概算費用
を算出し、費用対効果の視点からも実現可能
な検討を進める。

②取水分水施 設の運営方法

県運営、市への運営委託、民
間への指定管理などのパター
ンを検討

研究施設の立地プランと照らし合わせながら、
最適な運営パターンを検討する。

■ ソフト（研究内容）

（個別調査の結果をふまえて実施）

分析・ 検討

高知県の海洋
深層水における研究機能の
あり方と取
水・分水機能

①今後高知県
で取り組むべ
き研究課題

オンサイトとオフサイトで、
取り組むべき研究課題を分け
て整理

オンサイトで、新たに取り組む or 継続して取
り組む 研究課題を整理。
オンサイトでの研究課題を検討したうえで、
オフサイトで取り組む領域も合わせて検討。

研究課題から必要となる設備
などの検討

研究課題を考慮しながら新施設で導入する機
器を概算費用も含め検討する。

深層水研究所の運営体制の検
討

職員数の検討、外部機関からの参画の検討。
オフサイト研究施設との連携方法なども、他
県の事例から検討。

分水料金、県予算以外での実
効性のある研究資金調達方法
の検討

他県の事例等から参考にできる調達方法を検
討